

令和元年度 第1回 尾道市公立大学法人評価委員会 議事要旨

日 時：令和元年7月3日（水）10時30分～12時30分

場 所：尾道市立大学E棟1階120会議室

出席者：尾道市公立大学法人評価委員会 萩原委員長、瀬戸委員、豊田委員、藤井委員

その他の出席者

事務局（尾道市総務課） 中津総務課長、山崎総務課長補佐、土本主任

オブザーバー 公立大学法人尾道市立大学 中谷理事長、藤澤理事、寺山理事
荒井経済情報学部長、吉原芸術文化学部長、
信木芸術文化学部日本文学科長、
有吉経済情報学部教授、松浦企画広報室長、
前田係長、森下専門員、前迫主事、
土岸総務課長、崎丸学務課長

報告事項：1 平成30年度第3回尾道市公立大学法人評価委員会 議事要旨について
2 公立大学法人尾道市立大学平成31年度年度計画について

議 題：1 公立大学法人尾道市立大学役員の報酬等の支給基準について
2 平成30事業年度に係る業務実績評価について
3 その他

【委員長の選任】

堂本前委員長の退任に伴い、萩原委員長を選任

【報告事項】

- 1 平成30年度第3回尾道市公立大学法人評価委員会議事要旨について
平成30年度第3回尾道市公立大学法人評価委員会議事要旨について事務局から説明を行った結果、特に意見はなく、速やかに公開することとした。
- 2 公立大学法人尾道市立大学平成31年度年度計画について
公立大学法人尾道市立大学平成31年度年度計画について大学から説明を行った結果、委員から次のような意見があった。

(委員) 議題2に関係するところでもあるが、3ポリシー(アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー)が有効に機能しているかについて、平成30年度の自己評価が2になっている。達成できなかったことについて平成31年度の計画には記載がないが、どのように考えているのか。また、平成31年度の重点課題に関係する3ポリシーについて、「全学及び各学科の3ポリシーが有効に機能しているか課題抽出を行う。」と平成30年度の年度計画にあり、「3ポリシーは見直し・改訂中であることから、課題抽出は改訂後にすることとなった。」とするのは話が違う。過去のポリシーをどう評価するかを踏まえて改訂を行うのが本来の筋だと思うし、改訂をするために評価を行うものだと思う。

(法人) アドミッションポリシーは変更を予定しており、また他の2ポリシーも順次変更を予定している。各学部・学科において平成30年度の見直しを行ったうえで、改訂したポリシーを確認する作業を今年度以降行う。

(委員) ポリシーを立てる→実施→結果を見て評価できるものと思うが、今年度存在しないものについて来年度評価できるのか疑問に思う。

【議 題】

- 1 公立大学法人尾道市立大学役員の報酬等の支給基準について
公立大学法人尾道市立大学役員の報酬等の支給基準について事務局から説明を行い、審議の結果、全会一致で承認された。

- 2 平成30事業年度に係る業務実績評価について
 - (1) 公立大学法人尾道市立大学の活動報告について、大学から説明を行った後、公立大学法人尾道市立大学の年度業績評価方法について、事務局から説明を行った。この後、各委員が評点と特記事項を作成し、次の評価委員会で協議することとした。その後、各委員から次のような意見があった。

(委員) 中期計画で、「科学研究費補助金等外部資金への申請率を教員の70%以上となるよう取組む」とあるが、年度目標では「申請率及び採択率の向上を図る」とだけ記載している。やはりここは数値目標なので、附属資料にはまとめた資料を掲載し、継続・新規と細分化して、各々の件数が表になっていると分かりやすい。

現状の申請率及び採択率をどのように受け止めておられるか。

(法人) 科研費の応募件数は70%に到達していない。申請率を上げる取組として、不採択の中でも上位に評価されている場合は研究費を付けたり、他の教員と

一緒になって採択される申請書作りに取組んでいる。

(委員) 件数が少なくても採択額が多い年もあるため、年度ごとで考えた方がよい。
ただ、この取組は着実に実行している印象は持っている。

(委員) 退学率が前年度比で2倍以上になっている学科がある。学内での分析はできているか。

(法人) 退学理由は様々だと思うが分析まではできていない。出席率などをよく見てシグナルを見落とさないよう、チューターとの面接などきめ細かな対応をしていく。

(委員) 滑り止めで入学したが、次の年に他の大学へ入学したり、授業についていけないなど、様々な原因があると思うので分析が必要と感じる。

(委員) 近年就職に関して、学生の超売り手市場が続いている。その状況下では、就職率が低い印象を受ける学科がある。

(委員) 尾道市立大学へ来る留学生は増えているが海外へ留学する学生の数が少ない。保証人・申請などのハードルが高いのだろうか。交流展などいろいろな取組をしているので、年度での違いはあると思うが、国際交流に興味をもつ学生が増えて、今年、来年と結果が出てくるといい。

(委員) 業務の実績に関する報告書の第6(1)①、「3ポリシーが有効に機能しているか課題抽出を行う。」の自己評価については、年度計画で指摘があったとおり、書き方を修正した方がよいのではないか。

(法人) 修正について検討する。

(2) 次回の委員会は、7月29日に開催し平成30事業年度の評価について協議する。